

セーリング競技の高野芹奈さんが 東京オリンピック日本代表内定を報告



池内理事長(右)と握手する高野さん 芝井学長(左)と高野さん

昨年12月23日、体育会ヨット部の高野芹奈さん(人4)が芝井敬司学長と池内啓三理事長を訪ね、東京オリンピックのセーリング競技日本代表に内定したことを報告した。

高野さんと山崎アンナさん(日本体育大学)ペアは、12月3日～8日までニュージーランドのオークランドで開催された世界選手権女子49erFX級で20位に入り、代表選手の切符を手にした。リオデジャネイロに続き、2大会連続出場となる高野さん。「東京ではリオのリベンジを果たしたい。メダルレースに出場することを目標に、一生懸命頑張ります」と熱く抱負を語った。芝井学長は「いろいろなものを背負いすぎないように」と、メンタル面調整の大変さを気遣いながら、オリンピックでの活躍にエールを送った。

政策創造学部の石田教授研究室が 全国学生保険学ゼミナール討論大会でMNP賞を受賞



昨年12月21日と22日、明治大学で開催された全国学生保険学ゼミナール討論大会(通称RIS)において、石田成則教授研究室の学生6人による報告「保険会社のAI戦略 ―老後2000万円問題解決のための家計簿の見える化構想―」が、今年度のMNP賞(Most Notable Presentation)を受賞した。

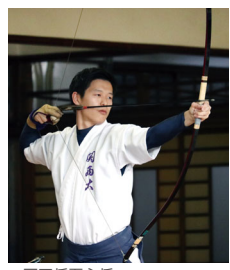
本討論大会は、保険とリスクマネジメントに焦点を当てて学ぶ全国の大学生が日ごろの研究活動の成果を発表する場として2004年から毎年開催。16回目を迎えた今年度は、20大学のゼミ生約200人が参加し、優れた報告に対して学生が選ぶMIP賞(Most Impressive Presentation)と、卒業生および実務家を選ぶMNP賞が選出された。



全日本学生弓道王座決定戦で体育会弓道部男子が準優勝



写真提供: 関大スポーツ編集局



▲岡田将吾主将 (写真提供: 関大スポーツ編集局)

昨年11月25～27日、三重県・伊勢神宮弓道場で開催された第67回全日本学生弓道王座決定戦に体育会弓道部男子が26年ぶりに出場し、準優勝に輝いた。

初戦、関西大学は昨年の全日本インカレ優勝校の慶應義塾大学に勝利。その後も競り合いながら駒を進めた。決勝では、同大会2連覇中の法政大学と熱い戦いを繰り広げ、134対145で惜しくも優勝を逃した。試合後、主将の岡田将吾さん(文4)は「4年間の集大成として有終の美を飾れなかったけれど、受け継がれてきた伝統を後輩へつなぐことができたとと思う。充実した青春だった」と語った。

イノベーションを起こす！ アイデア融合プログラム「i-Fusion2020」を開催



1月16日、梅田キャンパスにて理工系学部発の技術に社会につなぐアイデアコンテスト「i-Fusion2020」を開催した。

本プログラムは、「関西大学の技術シーズを社会につなげる」ことを目的に、2013年度から取り組んできたイノベーション対話プログラム「AjiCon」をリニューアルしたもの。第1回目となる今回は、システム理工学部の松島恭治教授が提供する「コンピュータホログラフィ」と、同学部の谷弘詞教授が提供する「摩擦発電」の2つをテーマに、商学部の学生6チームが、柔軟かつ斬新な発想でアイデアを披露した。

最優秀賞として「コンピュータホログラフィ」技術では、アミューズメント施設での使用を提案した「arinko」チームが、「摩擦発電」技術では鳥獣被害対策としてIoT対応の罠を提案した「シカの極み乙女」チームがそれぞれ受賞。今後も本プログラムから生まれた提案が、社会における課題解決の一助になることに期待が寄せられる。